



毛呂山町初 上級ジュニア・リーダーの誕生

鈴木穂乃花さんが表敬訪問を行いました

8月25日、毛呂山町で初めて上級ジュニア・リーダーに認定された鈴木穂乃花さん（高校3年生）が、毛呂山町子ども会育成会連絡協議会の霜崎会長と共に、表敬訪問を行いました。高校生が中心となって活動している上級ジュニア・リーダーは、豊かな知識と技術を活かし、地域の子ども会や青少年活動の指導役として大活躍しています。

これからの地域活動を担う頼もしいリーダーとして、ますますの飛躍を応援しています。



MOROYAMA PHOTO SNAP NEWS

遊歩道を彩る菊の花

地域の皆さんの想いが咲く季節

沢田地区内の遊歩道沿いに、30cmほどの間隔で約100mに渡り菊苗が植えられています。「沢田地区越辺川遊歩道を守る会」は月に一度、草刈りなどの手入れに励み、11月頃の開花を目指して活動が続けています。『花はひとりでは咲かない』一会員の言葉が、地域を想う心を表しています。この秋、皆さんもぜひ遊歩道を散策し、丹精込められた菊の花をご鑑賞ください。



ご寄附ありがとうございます

川角駅学園口駅前広場等の町道整備促進を目的として、城西大学様、日本医療科学大学様、明海大学様より、計6,700万円のご寄附をいただきました。また、「川角駅周辺地区整備事業の相互連携協定」に基づき、令和9年度も計4,700万円のご寄附をいただくこととなっています。いただいたご寄附は町道整備促進のため、有効に活用させていただきます。誠にありがとうございました。

城西大学様、日本医療科学大学様、明海大学様より
ご寄附をいただきました

学校名	令和8年度	令和9年度	計
城西大学	5,100万円	3,500万円	8,600万円
日本医療科学大学	1,000万円	800万円	1,800万円
明海大学	600万円	400万円	1,000万円
計	6,700万円	4,700万円	1億1,400万円



毛呂山町を元気にする 新たな挑戦！

第4回 毛呂山町

ビジネスコンテストを開催しました

地域課題をソーシャルビジネスで解決し、全ての町民がワクワクするような、新しい仕事や魅力的な働き方であふれる町とすることを目的とした「毛呂山町ビジネスコンテスト」。

8月25日、各提案者がプレゼンテーションを行い、GCF枠の採択者が決定しました。

今回の特集では採択された3つのプロジェクトを紹介します！



毛呂山町では、共感する事業へのご寄附が可能なプロジェクトもあります。

詳しくはこちら▶



主催・問合せ

株式会社もろやま創成舎
(役場205会議室)

☎050-3204-0415

✉info@souseisha.biz



株式会社ハタケホットケ
代表取締役 日吉 有為

超軽量・急傾斜対応草刈りロボット「クサキレール」による 農地・森林保全とファン獲得 GCF 推進事業

毛呂山町の急傾斜地での草刈り作業を超軽量の草刈りロボット「クサキレール」で効率化するプロジェクト。桂木ゆず畑や山林などで実証を行い、農家の身体的負担や事故のリスクを減らすとともに、農地の荒廃や森林機能の低下を防ぐ。また、地元企業や大学生がロボットの運用に参加する仕組みをつくり、若い世代の新たな仕事や地域とのつながりを創出。地域が主体となって農地や森林を守り続けられる、持続可能な仕組みづくりを目指す。



合同会社SAAP 代表社員
野澤 遼太郎

障害者アートのデジタル化による企業活用・地域循環事業

光の家療育センターの利用者が描いたアート作品をデジタル化し、町内企業や行政の広報物、商品、公共空間などに活用するプロジェクト。作品をまちの中で多くの人の目に触れる形で発信し、障害者の社会参加や自己表現の機会を広げるとともに、企業のPRや地域の魅力向上につなげる。さらに、収益の一部を作者や施設へ還元し、福祉・企業・行政がつながる、毛呂山町ならではの持続可能な地域循環を目指す。



立正大学
地域協働事業開発機構 代表
後藤 真太郎

土壌診断データに基づいた農地支援

毛呂山町の農地を微生物の観点から土壌分析し、土壌の状態や特徴をデータで「見える化」するプロジェクト。分析結果をもとに、土地に適した作物や土壌改良の方向性を示すことで、遊休農地の活用や新規就農者の支援につなげる。また、農産物のブランド化による農家の収益向上を図るとともに、地元大学生も調査や農業支援に参加。農家・大学・地域がつながる仕組みをつくり、毛呂山町の農業の活性化と担い手の確保を目指す。